

## 研究報告 2018-AL-170

※Windowsの方は[Ctrl]キーを, Macの方は[option]キーを押しながらリンク先をクリックしてください.

11月12日(月)

### ■AL [13:00-14:15]

- (1) [The Complexity of Ladder-Lottery Realization Problem](#)  
Katsuhisa Yamanaka, Takashi Horiyama, Takeaki Uno, Kunihiro Wasa
- (2) [An Improved Algorithm for Uniform Page Migration on Euclidean Space](#)  
Akira Matsubayashi
- (3) [Polynomial-time Algorithm for Dock Re-allocation Problem in Bike Sharing System](#)  
Akiyoshi Shioura

### ■CAS [14:25-15:40]

- (4) [イジングモデルによる求解における更新方法の性能の検討](#)  
内藤 有紀, 藤吉 邦洋
- (5) [周辺機器動作をふまえた電源装置の活線劣化診断手法の検討](#)  
石山 文彦, 鳥海 陽平
- (6) [重み平均に基づくペアリングによるルール並び替え法](#)  
淵野 敬, 原田 崇司, 田中 賢, 三河 賢治

### ■MSS [15:50-17:05]

- (7) [閉路フロー行列変換によるペトリネットの安定部分ネットの検知](#)  
張江 洋次朗, 和崎 克己
- (8) [一般ペトリネットにおける可達グラフ生成プロセスのメモリ効率化手法](#)  
藤森 浩平, 張江 洋次朗, 和崎 克己
- (9) [心拍変動バイオフィードバックのペトリネットモデル](#)  
新里 幸恵, 名嘉村 盛和, 金城 秀樹, 國田 樹

### ■MSS 招待講演 [17:15-18:05]

- (10) [ロバスト最適化法の教師あり機械学習への適用](#)  
武田 朗子

11月13日(火)

■AL [8:45-10:25]

- (11) [誤りの効果的な説明のための反例空間解析](#)  
戸田 貴久, 井上 武
- (12) [MDD の拡張による線形順序拡大集合の省領域表現とスケジューリング問題への応用](#)  
三宅 郁人, 瀧本 英二, 畑埜 晃平
- (13) [準線形時間ランデブーの可能性について](#)  
江口 僚太, 北村 直暉, 泉 泰介
- (14) [Multi-Pass Streaming Algorithms for Monotone Submodular Function Maximization](#)  
Chien-Chung Huang, Naonori Kakimura

■MSS [10:35-11:50]

- (15) [階層型マルチエージェント・シミュレーション技法による駐車場レイアウトの定量評価](#)  
尾山 武史, 榊原 一紀, 中村 正樹, 松本 卓也, 大原 誠
- (16) [放射線技師スケジューリングの中期計画に関する研究](#)  
宮本 俊幸, 日高 国幸
- (17) [都市型河川におけるポンプ動作を考慮した水位学習による予測精度の向上](#)  
山田 哲太郎, 笹原 広志, 飯田 祥文, 柿沼 隆, 永井 誠一, 亀田 洋志

■CAS [13:00-14:40]

- (18) [Parametric ReLU 関数を活性化関数として持つニューラルネットワークの多項式関数包囲を構築する方法](#)  
岡崎 秀晃, 小澤 和也, 磯貝 海斗, 橋 俊宏, 中野 秀夫
- (19) [Parametric ReLU 関数を活性化関数として持つニューラルネットワークによる多項式関数近似について](#)  
小澤 和也, 橋 俊宏, 中野 秀夫, 岡崎 秀晃
- (20) [ニューラルネットワークを用いたリチウムイオン蓄電池の劣化診断の一検討](#)  
有馬 理仁, 林 磊, 福井 正博
- (21) [全点間最短経路探索問題に対するベクトル計算機での高速実装](#)  
高島 康裕, 荒木 拓也, 細見 岳生, 中村 祐一

■MSS [14:50-16:05]

- (22) [プロセスマイニング手法を適用した離散事象シミュレーションモデルの仕様適合性検査](#)  
上原 健嗣, 平石 邦彦
- (23) [代数仕様を用いた数理計画モデルの形式的検証について](#)

中村 正樹, 榊原 一紀

(24) 多様なデータの連携分析のための頻度論理の拡張－頻度論理に基づく、より大規模な業務プロセスの評価に向けて－

高木 理